

日本の神話を素晴らしい絵本から

日本子どもの本研究会理事
三芳町立中央図書館司書
代田 知子

私には、小学生の時「いなばのしろうさぎ」の影絵や「やまたのおろち」のアニメーションを全校児童で楽しんだ思い出があります。でも、これが、我が国のはじまりを書き留めた「古事記」の一部であり、日本の神話でもあるということが頭の中ではじめて整理できたのは、高校の日本史の教師に勧められて、岩波少年文庫の『古事記物語』（福永武彦作 岩波書店 一九五七年初版）を読んだときです。男神と女神が天の浮橋の上から、下界の海（水に油が浮いているような頼りないもの）に長い矛をつきたて、ゆっくりかきませ日本列島を次々に作ったという最初の話から、「古事記」には思いがけない展開が多く、一気に読み終えてしまいました。神話は堅苦しい物だと思い込んでいた私には大変意外で、こんなにおもしろいなら、子ども時代から神話全体の流れを知っておきたかったと思っただけです。

ですから中学校から、教室で読み聞かせなどをしてほしいと依頼を受けたとき、即座に「古事記」をもとにした絵本『日本の神話（全六巻）』（舟崎克彦文 赤羽末吉絵 あかね書房 一九九五年初版）を読みたいと思いました。赤羽画伯の日本画風な重厚な絵がすばらしく、絵を見るだけでも、いにしえの世界を味わえると思ったからです。でも、いき

なり「神話」というと堅苦しく思いそうです。そこでまず、「三枚のお札」を語りました。そして、「この昔話では、小僧が後ろに札を投げて、鬼婆の前に障害物を出しながら逃げたでしょう。同じように物を投げて逃げるといふくだりが、日本の神話にもあります。ちょっと読んでみましょう」と、『日本の神話 第一巻 ―くにのはじまり―』を読んだのです。中学生は、昔話と神話の共通点や、神話の中の日本の神様が意外にも人間臭いことに興味を持ったらしく、随分集中して聞いてくれました。



しろた ともこ 図書館や学校、保育所などで、子どもたちに読み聞かせや語りやブックトークができる今の仕事が大好きです。

著書…『読み聞かせわくわくハンドブック』（代田知子著 一声社 二〇〇二）
DVD…『絵本・読み聞かせ おうちで実践編 1』『2』（代田知子監修・出演 アスク 二〇〇五）